

国際会議から

国際危害行動学会会議

本会議は、危害を加えようとする人の心理や行動を研究対象とする、心理学、神経科学、動物行動学、精神医学、政治学などの幅広い分野の研究者が参加する学際的な国際会議です。

今回、参加した会議は22回目となり、オーストラリア（シドニー）のニューサウスウェールズ大学で開催されました。鉄道総研からは今回が初めての参加となりました。

参加者の中心はヨーロッパ、アメリカや、会場のオーストラリアの研究者で、攻撃性に関連する脳部位の測定や動物実験などの基礎的研究から、職場のハラスメントや学校でのいじめ、家庭内暴力などの社会的課題に関する取り組みまで、分野横断的に約140件の発表や講演がありました。

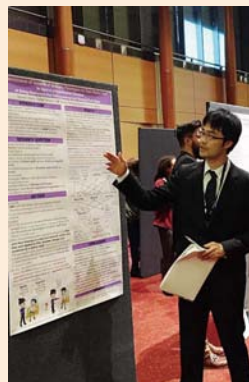
筆者は、鉄道利用者の駅係員対応の捉え方に関連する要因をモデル化した試みについて、ポスター発表を行いました。質疑応答では、鉄道利用者のトラブルやマナーの実態や、調査手続きにおける場面想定課題などについて意見交換を行いました。

ほかの発表でも、職場で怒りを生起させる要因、アルコールの影響のメカニズム、対人サービス業でのトラブル回避手法など、職場風土改善やお客様対応などの課題にとっても有用な知見を得ることができました。



会場のニューサウスウェールズ大学

開催地であるシドニーはOpalカードというICカードにより鉄道、バス、フェリー、ライトレールなどの公共交通機関の運賃支払いが統合されており、交通機関を横断した運賃上限や割引制度が設定されていることが印象的でした。



筆者の発表の様子

岡田安功
人間科学研究部
安全性解析研究室
研究員

正式名称：22nd World Meeting of the International Society for Research on Aggression
開催国：オーストラリア（シドニー）
期間：2016/7/19-23
主催：International Society for Research on Aggression
開催頻度：隔年
次回開催予定：2018年7月
フランス（パリ）
ホームページURL：
<http://www.israsociety.com/>

国際会議から 転がり接触疲労および摩耗に関する国際ワークショップ

本ワークショップは、車輪・レール間の転がり接触疲労および摩耗に関して重点的に議論する場として、2015年に開催された第10回レール・車輪接触力学と摩耗に関する国際会議（CM2015）のオーガナイザーが主催したワークショップです。初回となる今回は、カナダのバンクーバーにあるプリティッシュコロンビア大学で開催され、転がり接触問題における劣化現象の理論的検討、実験、数値シミュレーション、レールのメンテナンスなど多岐にわたる分野について25件の発表が行われました。シェフィールド大（英）のLewis教授をはじめ、総勢60名のこの分野で著名な研究者や技術者が参加して、さまざまな視点から活発な議論がなされました。日本からは鉄道総研1名、メーカー3名が参加しました。著者は、大規模並列計算による車輪・レール間の転がり接触シミュレーションについて、解析技術と計算事例を紹介しました。大学よりも鉄道事業者やメーカー関係の参加者が多かったこともあり、解析手法よりもシミュレーション結果の信頼性や転がり接触問題にどのように活用できるかといった点に関心があったように感じました。

このワークショップの議論を受けて、転がり接触疲労に関する評価、レールのメンテナンス、劣化現象のモデ



高垣昌和
鉄道力学研究部
計算力学研究室
室長

リングなどの個別分野のワーキンググループが設置され、今後も継続的に連携していくことが確認されました。

海外の研究者と意見交換する中で、転がり接触疲労や摩耗に対する考え方の違いやこれまで知り得なかった情報に触れられるなど、今後の自身の研究開発にとって有意義な時間となりました。

正式名称：1st annual ICRI Workshop on RCF and Wear
 開催国：カナダ（バンクーバー）
 期間：2016/8/2-4
 主催：International collaborative research initiative (ICRI)
 開催頻度：毎年
 次回開催予定：2017年8月 カナダ
 ホームページURL：http://icri-rcf.org/



会場のプリティッシュコロンビア大学



参加者の集合写真
（前列左から5番目が筆者）



バンクーバー中心街
（ノースバンクーバーより）